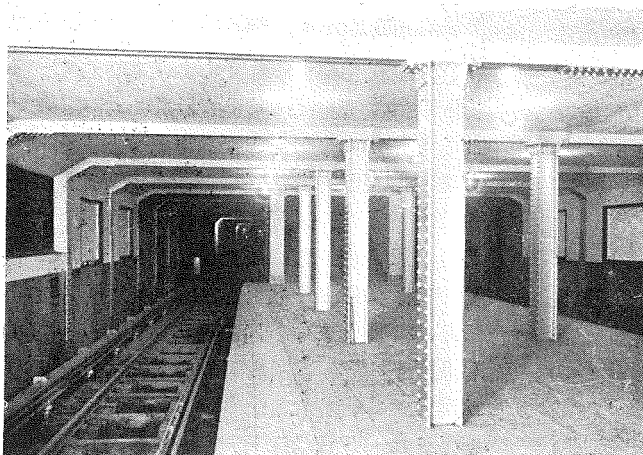


東京地下鐵道會社の最近竣工開通した京橋停留場のホーム情景である。設計も施工も益々冴えて來て、合理的な經濟工事と云ふ點が充分に窺はれる。



設 計 東京地下鐵道株式會社工務課。

施 工 株式會社間組。

地下鐵道の十年間

東京地下鐵道株式會社專務 早 川 徳 次

四月十八日午前十時、丸ノ内に新裝なつた日清生命ビル四階、東京地下鐵の應接室で早川氏は語る。

別に苦心とか努力とか自分は今何らの回顧談を持たないが、唯會社創立當時より自分の身心が不死身であつた事が思ひ出される。

自分に何等の資金もなくして、何うして此の何千萬圓と言ふ地下鐵の事業が出来たかと思ふ位だが、それは唯自分が最初から不死身であつたからだと思ふ。

私はロンドンで彼のテムズ河底の隧道を見て、それが二十年も苦心を重ねて、尙ほ幾度か失敗して漸く竣工した事を知り、又大正五年在米中に大藏大臣のマッカーズ氏がニューヨーク市のイースト・リバーに地下鐵道建設を熱心に主張したが、十三年目に漸く着手する事が出来た事を聞いた。

米國の大を以てして、然もマッカーズ氏の地位を以てしてすら尙且つ此の長年月の苦心と努力を要したのである。まして日本の如き貧弱な富の程度の低い國で、然も我々無力のものが此の地下鐵道を創めるには、何うしても一身を犠牲にしてやらねばならぬと言ふ決心をした。それが最初のスタートに於ける私の覺悟であつた。

愈々事業の端緒についてからは死の苦しみもあつた、泣くにも泣けない様な事もあつたが、既に自分は非常の覺悟をして進んでゐるのである。吉田松陰が詠じた

うき事のなほ此の上につもれかし

限りある身の力だめしに

此の歌の意を以て私はいつも事業に處してゐる。幸にして神經衰弱にもかゝらず、病氣もせず今日の如く身體も丈夫で滿々と肥えて

ゐるのも一に此の精神的覺悟のお陰だと思つてゐる。

昭和二年淺草七野間工事に着手する事となり初めて抗打式を舉行した時だけは全く感慨無量で涙が出た。而して私は此嬉しさを郷里に打電して亡父の墓前に報告して貰つた。私は末子であつたから父に對して孝行と言ふ程の事も出来なかつたが、此時だけは父にも喜びを分けたかつた。

其後工事は一區々々竣工開通してゐるが、東京地下鐵道は非常な難工事で、大阪市營の地下鐵などとは雲泥の差である。我が社が頻繁なる東京市の交通を妨げないで、能く此丈けにやつて行く事は、一に社員諸君及工事請負者諸君の努力であると感謝してゐる

今までの開通には開通式らしい事もしなかつたが、來年三月に新橋まで竣工すると、即ち淺草新橋間の開通となり、之が東京地下鐵道會社のファンデーションをなすものであるから、其時は鐵道工事界最大の開通式祝賀祭を催するつもりである。

×

今までは技術家と言ふものは實社會にうとい非常識の人間が多い様に思はれ、技術家自身もそれで甘んじ、椽の下の方で満足してゐるが、今後の事業はエンジニアがマネージメントをやらねば駄目だ。

私はドイツの技師ブリステ氏を信賴して最初の工事を監督して貰つたが、ドイツでもアメリカでも其所に長所があれば直に之を採用してゐる。日本の技術家も獨創に向つて研究を進むべきは勿論であるが、又方々眼界を廣くして世界の長所を採用し、能く自分の技術に利用する事を考へて貰い度い (終)